

特別な支援を必要とする子どもたちに対する切れ目ない支援体制の構築に向けて、家庭や関係機関等がより連携を深めていくことが求められているところです。

県教育委員会では、特別支援教育に関する理解啓発や関係機関との連携を推進し、障がいのある子どもたちの教育の一層の充実を図るため、『特別支援教育理解促進フォーラム』を開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の現況を踏まえ、オンデマンド型動画配信による開催といたしました。

今年度は、ベネッセグループの特例子会社であるベネッセビジネスメイトで、障がい者の就労支援に尽力されている 網代 美保 氏の講演のほか、県内関係機関の代表者によるシンポジウムを行いました。

#### ◆開催方法

オンデマンド型による動画配信（YouTube を利用）

#### ◆配信期間

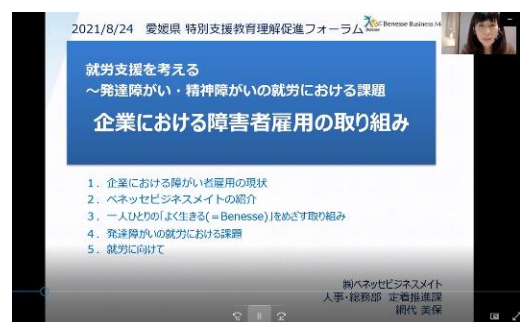
令和3年9月10日（金）～10月10日（日）

#### 【講演】

演題「就労支援を考える～発達障がい・精神障がいの就労における課題～」  
講師 網代 美保 氏（株式会社 ベネッセビジネスメイト）

愛媛県生まれ。精神保健福祉士。現在、株式会社ベネッセビジネスメイト人事・総務部定着推進課に所属。一般社団法人東京公認心理師協会や精神障害者就労定着支援連絡会等が主催する数々の就労支援・定着支援に関する研修会等において、企業の立場からの話題提供や講師を務めている。

網代氏には、就労支援を考えるというテーマのもと、企業の立場からの取組について、お話をいただきました。始めに、障がい者雇用促進法や、特例子会社制度について、ご説明いただきました。次に、ベネッセビジネスメイトにおける障がいのある社員が安定して力を発揮するための取組や課題について、お話いただきました。発達障がい者の就労においては、その特性から期待に応えようと頑張りすぎてしまい、過剰適応になってしまうなどの課題があるとのことでした。長く働き続けるためには、職場と本人がマッチングできている状態であることが非常に重要になること、そのためには、自分の強みと弱みを知り、自分のやりたいことを整理してから、働く条件や場所を考えることが大切であるとのことがありました。企業側も、戦力として長く働き続けられる人、仲間と協力して一緒に成長できる人を求めており、健康管理、日常生活管理、社会生活・対人関係の力等、働くための準備がどれだけでできているかが重要なポイントであることなど、ご教示いただきました。



## 【シンポジウム】

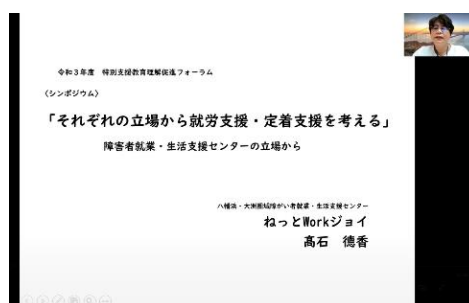
テーマ「それぞれの立場から就労支援・定着支援を考える」

|          |                          |       |
|----------|--------------------------|-------|
| コーディネーター | 愛媛大学教育学部教授               | 中野 広輔 |
| 指定討論者    | 株式会社ベネッセビジネスメイト          | 網代 美保 |
| シンポジスト   | 八幡浜・大洲圏域 障がい者就業・生活支援センター | 高石 徳香 |
|          | 県立みなら特別支援学校就労支援コーディネーター  | 遠山 悦郎 |

### 《シンポジストの主な発表内容》

#### ＜高石 徳香 氏（八幡浜・大洲圏域 障がい者就業・生活支援センター）＞

卒業後の就労を支える立場から、障がい者就業・生活支援センターの支援業務を通じて感じている課題、ライフステージを意識した各機関との連携について、お話をいただきました。就労定着を図るためには、本人のことを知った根拠ある支援が必要となるため、アセスメント（実態把握）を大切にしていること、また、生活面への支援も重要であることなどについて、お話いただきました。



#### ＜遠山 悦郎 氏（県立みなら特別支援学校就労支援コーディネーター）＞

就労支援コーディネーターの仕事内容や、仕事を通して感じたことをお話いただきました。本人、保護者、進路担当者との面談の結果を受け、生徒がどこでどのような仕事に就きたいのかという一人一人のニーズをしっかりと把握した上で、適性に合った職場を探すことが最も重要であり、そのための職場開拓に努めていることを、経験を基に具体的にお話いただきました。



#### ＜網代 美保 氏（講演講師、指定討論者）＞

支援を受けることを嫌がり、転職希望をしていた社員でも、自分に合った仕事内容に配置変更すると、生き生きと仕事をし始めるようになった事例の紹介や、社員一人一人の日々の様子を丁寧に見守りながら不調や不安に早めに対応するよう心掛けていることなどについて、お話いただきました。

#### ＜中野 広輔 氏（愛媛大学教育学部教授、コーディネーター）＞

中野教授からは、家庭と教育と関係機関が目指すところは、自立して社会で活躍できる子どもの成長の支援であるということなど、総括をいただきました。

今後も、本フォーラムを通して、特別支援教育に関する理解啓発や関係機関との連携を推進し、障がいのある子どもたちの教育の一層の充実が図られるよう、努めてまいります。